

# 欧米諸国の衝撃と日本

～「近現代の日本と世界」の歴史学習の導入として～

国立大学附属中学校教諭

### 1

#### 本単元の位置づけ

大項目「近現代の日本と世界」では、日本の開国と明治維新以後の歩みについて、世界の動きとの関連に着目させ、多面的・多角的に理解させるとともに、人類の福祉と国際平和の実現について考えさせる学習を展開する。

この学習の導入にあたるのが本単元（「中学生の歴史 初訂版」の第5章「近代日本の歩みと国際社会」・第1節「欧米諸国の衝撃と日本」）である。

本単元のねらいは、欧米諸国の近代社会の成立とそのアジア進出を背景に、日本の開国から戊辰戦争までの政治や社会の変化を理解させることであるが、本稿では、大項目「近現代の日本と世界」の導入として、近現代の日本と世界の歴史の特色を究明するための課題意識も育成する授業案を提案する。

### 2

#### 指導上の工夫

課題意識をもたせる時代のスパンは近現代全体とし、第5章から最後の第7章「現代の日本と世界」まで（p.135～233）とする。

新学習指導要領では、内容の取扱いとして、「各時代の特色や時代の転換にかかわる基礎的・基本的な歴史的事象を重点的に選んで指導内容を構成すること」、「各時代の学習の初

めにその特色の究明に向けた課題意識を育成したうえで、他の時代との共通点や相違点に着目しながら、大観や表現の仕方を工夫して、各時代の特色をとらえさせるようにすること」とされていることもふまえ、以下のフレーズをいくつか作成して時代（社会）が転換したことを端的に表現させ、その背景や原因を探る課題意識をもたせるように工夫する。

A 「から」

→なぜそのような変化がおこった？

→日本ではどうだったか？

B 「からが受けた影響（衝撃）」

→どのような影響（衝撃）だった？

### 3

#### 学習指導の流れ

##### 第1時 近現代の導入～フレーズづくり～

**導入** エルンスト・H・ゴンブリッチ著『若い読者のための世界史』（中央公論美術出版）で日本の開国と近代化について述べられた箇所の一文を紹介（板書）し、その意味を考えさせる。

日本人は、世界史のもっともすぐれた生徒であった。

**【解答例】**日本はヨーロッパの言いなりになった。／日本はヨーロッパと同じように発展していった。／皮肉に聞こえるから、ヨーロッパと同じ問題をおこしたのかもしれない。

展開1 クラスを6つのグループに分けて、以下の各2ページ分にあたる内容から、変化・発展を示すA「からへ」というフレーズか、B「からが受けた影響（衝撃）」というフレーズを考えることを課題として割りあてる。

1 自由と平等を求めた市民革命

2 世界の生活をかえた産業革命

3 欧米諸国の世界進出

「中学生の歴史 初訂版」p.136~141

各フレーズは、ノートの左のページに記入し、右のページには、「なぜそのような変化がおこったか」「日本ではどうだったか」などの追究結果を記入（第2時以降）できるように指示する。

【フレーズの例と参考になる資料】

- 〔①のA〕 ・ 専制政治から民主政治へ
- ・ 専制政治から立憲君主制へ（イギリス）
  - ・ 身分制にもとづく社会から自由で平等な社会へ（民主主義）
  - ・ 王政から共和政へ（フランス革命）
  - ・ 国王から国民へ（主権）

君主政治		
専制君主制	立憲君主制	共和政
国王や皇帝に統治の権利があり、思うままに政治を行う	国王や皇帝に統治の権利があるが、法によって制限され、国民が政治を行う	国民に統治の権利があり、法にもとづいて政治を行う
		民主政治

「中学生の歴史 初訂版」p.137



② フランス革命をえがいた風刺画 革命前(左)と革命後(右)の僧侶・貴族・平民をえがいています。

「中学生の歴史 初訂版」p.136

- 〔①のB〕 ・ 国民（平民）から国王（貴族）が受けた衝撃（特権の剥奪）
- ・ アメリカの独立からフランスの人々が受けた影響（共和制国家の誕生）
  - ・ 思想家（ルソー）からフランスの人々が受けた影響（人権の思想、国民主権の考え）



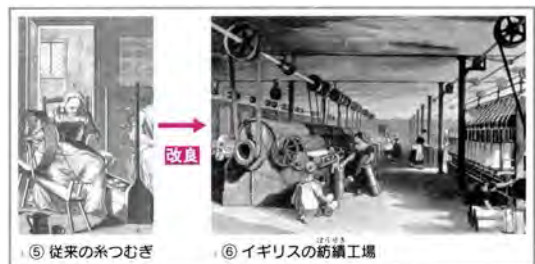
「中学生の歴史 初訂版」p.136

- 〔②のA〕 ・ 馬車から蒸気機関車へ（動力革命・交通革命）
- ・ 農業中心から工業中心の社会へ（工業化、資本主義の社会）
  - ・ 手仕事から機械による大量生産へ（技術革命・動力革命）
  - ・ 手工業者や農民から工場労働者へ（労働の質・量の変化）



① 鉄道の開通 イギリスで1825年、はじめて鉄道が開通したときのような様子。多くの人が見物にきました。

「中学生の歴史 初訂版」p.138



⑤ 従来の糸つむぎ ⑥ イギリスの紡績工場

「中学生の歴史 初訂版」p.139

- 〔②のB〕 ・ 鉄道の整備から人々が受けた影響（都市の発達、工業化の進展）
- ・ 工場の増加から人々が受けた影響（生活環境の悪化）
- ・ 労働者が資本家から受けた影響（厳しい労働条件）
- ・ 思想家（マルクス）が資本主義の問題から受けた影響（社会主義の思想）

〔③のA〕 ・ 独立国から欧米諸国の植民地へ（アジア・アフリカなどの国々）

・ 異国船打払令から薪水給与令へ

〔③のB〕 ・ 欧米諸国（イギリス）から植民地支配を受けた国（インド）が受けた影響（伝統産業のおとろえ）

・ イギリスから（アヘンが輸出された）清が受けた影響（銀の不足とアヘン中国患者の増加、アヘン戦争）

・ アヘン戦争（の結果）から日本（江戸幕府）が受けた影響（外国船の打払令の緩和と国防の充実へ）



「中学生の歴史 初訂版」p.140



「中学生の歴史 初訂版」p.140

展開2 グループごとに発表する。このとき、フレーズだけでなく、具体的にどのような変化や影響があったのか、教科書ではどの資料を見ればわかるのかを簡単に説明させる（黒板で写真パネルなどを提示できると効果的である）。

まとめ 本単元の第2時以降の学習の流れとそのねらいを簡単に説明する。

## 第2時 市民革命と明治以後の日本

本時では、①の市民革命による社会の変化について、前時のフレーズを題材として学習する（前半）とともに、そのような変化が日本ではいつどのようにおこったのかについて、教科書の資料や本文中のキーワードを探させて、課題意識をもたせるよう指導する（後半）。それらの変化が「なぜ、どのような経緯でおこったのか」という問いが、今後の各単元の学習で追究すべき課題となる。

### 後半の展開例

【問1】日本では、身分制にもとづく社会から自由で平等な社会に変化したのはいつのことだろうか。

【解答例】明治初期に「四民平等」が実現した。しかし、「古い身分制度はなくなりましたが、国民全体がすぐに平等になったわけではありません」と教科書に書いてある。／自由民権運動がはじまり、国会の開設要求が政府に出された。／大日本帝国憲法が制定されても、主権は国民になく、自由は法律で制限されていた。／日本国憲法で初めて「基本的人権の尊重」「国民主権」が基本原則となった。（小学校での学習のふり返りも行う。）

【問2】フランス革命と明治維新を比べると、中心になっていた人々にはどのような違いが見られるだろうか。

【解答例】フランスでは民衆（「平民」）が革命の中心だったが、明治維新は、フランスでは特権階級にあたるような「武士」を中心とした改革だった。／フランス革命では国王が処刑され、王政が廃止されたが、明治維新では「王政復古」により天皇を中心とする新政府の成立が宣言された。



① 明治天皇の2枚の写眞 左は伝統装束を着た天皇です。右の軍服姿の天皇は断髪をして、ひげをはやしています。

「中学生の歴史 初訂版」p.148

### 第3時 産業革命・欧米の世界進出と日本

本時では、②の産業革命と③の欧米諸国の世界進出を題材に、工業化による社会の変化や欧米諸国の進出に対するアジア諸国の対応と変容について、第1時で作成したフレーズを題材として学習する（前半）とともに、そのような変化や対応が日本ではいつどのようなことかについて、課題意識をもたせるよう指導する（後半）。

#### 後半の展開例

【問1】イギリスと清との間のできごとと、アメリカと日本との間のできごとで共通していることは何だろう。また、違うことは何だろう。

【解答例】共通点：港を開いたこと。不平等な条約が結ばれたこと。／相違点：戦争にはならず、日本が植民地のような状態にならなかったこと（開国後は攘夷が実行され、戦闘がおこった）。日本では欧米諸国にならって近代的な軍備の増強をはかるようになったこと。



① 占領された長州藩の下関砲台（オランダ・ライデン砲台跡）

「中学生の歴史 初訂版」p.144

【問2】日本ではどのように産業が発達していったのだろうか。

【解答例】明治新政府の殖産興業政策によって、各地に官営工場が建てられた。日清戦争の前後の時期に、繊維産業や鉄鋼業が大きく発達した。同時に、労働問題などの社会問題もおこった。技術革新は現在も続く。

### 第4・5時 ペリー来航から戊辰戦争まで

この2時間では、尊王攘夷の考えをもち、それを実行した人々の動向を中心として、幕府や朝廷の立場と関連させながら、開国から倒幕、明治維新へとたどり着くまでの動きをまとめる。このとき、幕府がとった政策によって、攘夷派の人々だけでなく武士や民衆の支持がどのように失われたか（安政の大獄、公武合体策、長州討伐、貿易の開始による経済の混乱）に着目すると理解しやすくなる。

この2時間の学習をふまえることで、次節では明治新政府がとった政治方針の意義について、「攘夷から開国和親へと考えを変えた新政府の人々がなぜ支持されるようになったのか」「日本の人々や欧米諸国から支持されるために明治新政府が行うべきことは何だったか」という観点から課題を追究させ、複雑な国際情勢の中で日本が独立を保ち、近代国家を形成していった政府や人々の努力に気づかせることができる。